

はぼまい 歯舞地区マリンビジョンニュース

Vol.36
2011.8



歯舞地区マリンビジョン協議会事務局では、地域協働の取組みにより作られた『歯舞地区マリンビジョン計画(平成19年3月策定)』の行動計画について、個々の推進状況など、活動の様子について「歯舞地区マリンビジョンニュース」を発行して、地域の皆様方にお知らせしています。

発行・編集：歯舞地区マリンビジョン協議会事務局

5年目を迎えた長崎県上五島町漁協との人事交流

歯舞地区マリンビジョン協議会では、「つくり育てる漁業環境の整備と人材育成」の一環として、長崎県五島列島の上五島町漁協との人事交流を行っています。

この取り組みは今年で5年目を迎え、今年は7月21日～26日までの5日間、歯舞漁協事業部購買課長伊藤司さんが上五島町漁協へ派遣されました。

研修内容は、上五島町漁協魚市場での販売・冷蔵事業、定置網漁業体験、信用・共済事業、購買事業、上郷支所業務全般、アワビ種苗中間育成センター等に関する研修です。

その他に、新上五島町役場水産課及び長崎県普及指導センターを訪問し、新上五島町や長崎県の水産業について話を伺いました。北と南で遠く離れてはいても、「漁業者の高齢化・後継者不足」「漁獲量の減少及び魚価の低迷」「漁業経費の増大」等、漁業を営む者が抱える課題は共通であると痛感しました。

歯舞漁協と上五島町漁協では漁業の規模は大きく異なりますが、上五島町漁協では、少ない水揚げでも付加価値を高めてより良い物を消費者に届けるため、水揚げした魚に対して一尾一尾丁寧に扱い、それぞれにあった鮮度保持技術を独自に研究することで、ブランド化に取り組んできました。

また、離島というハンデを逆に利用して離島交付金や各種補助事業をうまく活用し、組合、漁業者に利益を上げる工夫があり、同じ課題を抱える漁協として多くのことを学んだ研修となりました。

また、離島というハンデを逆に利用して離島交付金や各種補助事業をうまく活用し、組合、漁業者に利益を上げる工夫があり、同じ課題を抱える漁協として多くのことを学んだ研修となりました。



＜上五島町漁協で研修を行った歯舞漁協の伊藤司さん＞



「いっぱいとれた！」 大盛況 歯舞半島の潮干狩り

● 歯舞地区マリナビジョン協議会が主催する、トーサムポロ沼での潮干狩り一般開放が7月30日に初日を迎えました。

● この潮干狩り場は、歯舞地区マリナビジョン協議会が2年がかりでトーサムポロ沼を造成、整備を行ってきた1200平方メートルの人工の潮干狩り場です。

● 初日はあいにくの曇り空で肌寒い一日でしたが、事前予約した定員いっぱいの80人が訪れました。

● 歯舞漁協職員からバケツと熊手を受け取った参加者らは、職員の指導を受けながら思い思いの場所で潮干狩りに挑戦。



＜潮干狩りを楽しんだ参加者ら＞



大粒のアサリを次々と掘り出し、子供たちからは「いっぱい出てきた!」「大きい!」と歓声が上がっていました。

また、福島第1原発事故の影響により屋外で遊べなくなり、根室の野外体験学校に参加している福島県の小中学生22人も潮干狩りに参加。児童たちはみな、バケツいっぱいのアサリを前に大喜びの様子でした。

今年の開催は、このほかに7月31日、8月13日、14日の計4日間で、延べ400人を超える入場者数となり、大勢の親子連れが海との触れ合いを楽しみました。

「屋根付き岸壁」及び「清浄海水取水施設」の供用開始

● 国の直轄事業として平成19年から建設中の「屋根付き岸壁」及び「清浄海水取水施設」が今年7月末に完成、この度供用が開始され、8月4日には完成式典も行われました。



＜完成式典＞

本施設の供用開始によって、岸壁から市場まで一体的となり、水産物の野天防止や鮮度保持対策が図られ、一層の品質や衛生管理の向上が期待されます。

今後は、施設の有効活用を図り、衛生管理の徹底を行いながら、更なる歯舞産水産物のブランド化や付加価値向上、食に対する安全・安心に取り組んでいきます。また、「お魚催事」を中心に多面的な活動を通じて、魚食の普及・拡大に繋げていきます。



＜屋根付き岸壁＞



＜清浄海水取水施設＞

■ 編集・発行・お問い合わせ ■

■ 編集・発行

歯舞地区マリナビジョン協議会事務局

■ お問い合わせ

事務局 担当：根室市水産経済部水産港湾課水産振興担当

電話：0153-23-6111 FAX：0153-24-8692

